

カリフォルニア・デザイン 1930-1965

“モダン・リビングの起源”

California Design, 1930-1965: “Living in a Modern Way”



【左】マリー・アン・デウィーズ（女性用着）1961年 ロサンゼルス・カウンティ美術館蔵 LACMA, Gift of Mary Ann DeWeese, DeWeese Designs ©2011 The Warnaco Group, Inc. All rights reserved. For Authentic Fitness Corp., Cole of California. Photo ©2011 Museum Associates/LACMA 【中】チャールズ&レイ・イームズ、エヴァンス・プロダクツ社成型合板部門（像）1945年 イームズ・コレクションLLC蔵 Eames Collection, LLC ©The Eames Foundation. Courtesy Eames Office LLC (eamesoffice.com) 【右】オットー & ガートルード・ナツラー（像）1943年 ロサンゼルス・カウンティ美術館蔵 LACMA, Gift of Rose A. Sperry 1972 Revocable Trust ©2007 Gail Reynolds Natzler, Trustee of The Natzler Trust. Photo ©2011 Museum Associates/LACMA

「カリフォルニア・デザイン 1930-1965 -モダン・リビングの起源-」展は、カリフォルニアにおける「ミッドセンチュリー・モダン」デザインをテーマにした大規模な展覧会です。20世紀初頭から多くの移民を受け入れてきたカリフォルニアは、第二次世界大戦後、世界の経済力を誇る大国アメリカの大衆文化の中心として飛躍的な発展を遂げました。急激な人口の増加によって、建築や生活空間のデザインの需要が生じたカリフォルニアでは、戦争に際して開発された新技術・新素材を有効活用した、大胆かつ実験的な独自のデザイン活動が展開されました。カリフォルニアの温暖な気候や楽観主義的な風土、そしてアジア、メキシコに近いという立地から、開放性や鮮烈な色彩を特徴とする気楽で快適な「グッド・ライフ」デザインの典型が誕生したのです。やがてそれはアメリカ国内のみならず、ハリウッド映画などメディアを通して世界中に伝えられ、強い影響力を及ぼすに至ったのです。本展では、20世紀デザイン史において重要な役割を果たしたにもかかわらず、これまで十分に紹介されてこなかった「カリフォルニア・モダン」の全貌を、家具やファッション、陶芸、グラフィック、建築写真、映像など約250点の作品を通して検証します。

会期：2013年3月20日【水・祝】～6月3日【月】

会場：国立新美術館 企画展示室1E

休館日：毎週火曜日、ただし4月30日【火】は開館

開館時間：10:00～18:00、金曜日は20:00まで

※入場は閉館の30分前まで

主催：国立新美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館

協力：日本航空、日本貨物航空株式会社

観覧料金（税込）：一般 1,000【800】円 大学生 500【300】円 【】は前売および20名以上の団体料金

URL：<http://www.nact.jp/> 国立新美術館 〒106-8558 東京都港区六本木7-2-2

●高校生、18歳未満の方および障害者手帳をご持参の方【付添の方1名を含む】は無料 ●5月18日【土】は国際博物館の日につき、入場無料 ●団体券は国立新美術館のみで販売 ●会期中に当館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館（六本木アート・トライアングル）で開催中の展覧会チケット（半券可）を提示された方は、団体料金が適用されます ●前売券および当日券は、チケットびあ（Pコード：765-394）、ローソンチケット（Lコード：39105）でも取り扱っています（手数料がかかる場合がございます） ●前売券は2012年11月7日【水】から2013年3月19日【火】まで販売（予定）（国立新美術館では、3月18日【月】まで） ●開催情報は変更となる場合があります。最新情報は当館ホームページ、ハローダイヤルでご確認ください ハローダイヤル：03-5777-8600

本展に関する詳細なプレスリリースは、2012年12月頃に発送させていただく予定です。

報道関係のお問い合わせ：国立新美術館 広報担当 石松、窪田、桐生

Tel:03-6812-9925 Fax:03-3405-2532 e-mail:pr@nact.jp URL:<http://www.nact.jp/>



THE
NATIONAL
ART CENTER,
TOKYO
国立新美術館